

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	グループホーム入居者の便秘解消を目指す取り組み ～排便体操 DVD を制作して～
演者名	○尾山 直子、森 寿江、片山 智栄、五味 一英、遠矢 純一郎
所属	桜新町アーバンクリニック

目的

グループホームのスタッフと協働し、認知症のある高齢者が実行可能な排便体操プログラムの DVD を検討・制作。施設での生活の中に便秘予防の体操や腹部マッサージを習慣にすること。

実践内容

対象者：グループホームに入居中の高齢者 18 名（日常生活自立度 A1～B2、認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱb～Ⅳ）

制作期間：約 2 ヶ月

制作チーム：訪問看護師 2 名、グループホーム施設長、スタッフ 24 名

制作過程：

- ① 先行研究にて効果が認められた排便体操をもとに、看護師が絵コンテを作成。利用者の身体機能・認知機能で安全に実行可能かスタッフと検討。
- ② 認知症高齢者が受け入れやすいように、スタッフが出演・ナレーションを担当するように工夫。全てのスタッフが出演し、制作に関わるようにした。
- ③ 看護師が撮影・録音を担当し、編集はグループホームスタッフが担当した。
- ④ DVD の放映時間は午前中に設定。放映中はスタッフから利用者に声かけや動作の補助をするように働きかけ、習慣化するように促した。

実践効果

初日の放映で半分以上の利用者が映像を見ながら模倣し、体操を行うことができた。現在、日常の業務の中に排便体操が取り入れられている。

利用者の身体機能・認知機能によっては介助が必要であるが、利用者の代わりにスタッフが腹部マッサージを行うなど動作を補う様子が習慣化されつつある。

考察

本実践より、認知症のある高齢者にとって、見慣れたスタッフの出演や聞き慣れた声のナレーション、動画による視覚的な情報提供（大きい動作で分かりやすく実施）は効果的であり、排便体操への受け入れがスムーズであったと考えられる。その後の便秘解消の効果については当日お伝えしたい。

全てのスタッフが当事者として制作に関わり、排便体操の意義や必要性が理解された。その結果、便秘予防策としての排便体操を日々の習慣とすることが可能となった。